

ヴェーバー生誕150周年記念シンポジウム

戦後日本の社会科学とマックス・ヴェーバー

日時：2014年12月7日（日曜日）10時—18時45分（開場9時30分）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス8号館B101教室

第一セッション 10:00～12:30

資本・信仰・支配への問い

——ヴェーバー生誕100年シンポジウムから半世紀 司会：中野敏男（東京外国語大学）

第一報告 資本の増殖欲求と勤労倫理

報告者 小林純（立教大学）

第二報告 近代と宗教——禁欲的プロテスタンティズムと神秘主義

報告者 深井智朗（金城学院大学）

第三報告 支配と法——憲法「改正」問題についてのヴェーバー的読解の試み

報告者 水林彪（早稲田大学）

第一セッション討論

第一討論者 荒川敏彦（千葉商科大学）

第二討論者 樋口陽一（東京大学名誉教授）

第二セッション 13:30～16:00

マックス・ヴェーバーと現代社会の理論

——民主主義・福祉国家・権力 司会：宇都宮京子（東洋大学）

第一報告 民主的正当化・統制をめぐる——ヴェーバーと現代政治理論

報告者 齋藤純一（早稲田大学）

第二報告 価値自由と福祉国家——ヴェーバーからミュルダール、そして現代へ

報告者 藤田菜々子（名古屋市立大学）

第三報告 権力論と社会的なものの概念——ヴェーバーとフーコーから

報告者 市野川容孝（東京大学）

第二セッション討論

第一討論者 野口雅弘（立命館大学）

第二討論者 三笥利幸（九州国際大学）

総合討論 16:15～18:45

マックス・ヴェーバーと近代／戦後日本

第一討論者 恒木健太郎（専修大学）

第二討論者 鈴木宗徳（法政大学）

総合司会：中野敏男、宇都宮京子

趣 旨

2014 年はヴェーバーが生誕して150 年目という節目に当たります。そして、この年からちょうど50 年遡る1964 年には東京で「ヴェーバー生誕100 年記念シンポジウム」が行われていて、大塚久雄や丸山眞男をはじめ当時の日本の主だった社会学者たちが一堂に会したこのシンポジウムは、その時点での社会諸科学の全体状況をヴェーバー受容の観点から総括するという意味を持つこととなりました。2014年に開かれる本シンポジウムは、敗戦から19 年あまりが過ぎて「戦後」の形がひとつのまとまりを見せたとみてよい1964 年の時点と、それから半世紀が過ぎて「戦後」の終焉と共に「近代」という時代そのものの変容が語られる2014 年の時点という、二つの時点を対照的な参照点として意識しながら、戦後日本の社会諸科学と現在の現代社会理論を広く見通し、その中でのマックス・ヴェーバーの所論の意義をあらためて問いに曝すことを企図しています。

東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故は、近代文明の技術的基礎の脆弱さを露呈させ、それに依存して経済成長に突き進んだ戦後日本の歩みを根底から問いに曝しましたが、今日の社会科学は、いまだそうした問いに原理的に応答する道を開きえていません。このような状況において、本シンポジウムでは、戦後日本の社会諸科学が〈近代〉を考えるとときつねに準拠標となってきたマックス・ヴェーバーにあらためて光を当て、とりわけ、〈資本主義〉、〈民主主義〉、〈支配と権力〉、〈福祉国家〉など、彼に学びながら論じられてきた近代社会を問う鍵となる諸概念に注目しつつ、それらをめぐって続けられてきた社会諸科学の専門領域での議論を突き合わせ精査しようと思います。そして、ヴェーバーを導きとして学問領域を横断するこの広い視野から、〈近代〉と〈戦後日本〉への問いに原理的に応答する道を開きたいと考えています。

多くのみなさまが関心をよせられ、広くご参集下さいますようお願いしております。

主 催：ヴェーバー生誕150周年記念シンポジウム実行委員会

予約：不要 資料代：500円

問い合わせ：シンポジウム実行委員会 (webersympo@yahoo.co.jp)

<http://www.tufs.ac.jp/st2/club/weber21/>

*交通アクセス

地下鉄東京メトロ 東西線早稲田駅より徒歩5分

学バス 高田馬場駅→早大正門

都電 荒川線早稲田駅より徒歩5分

事務局からのお知らせ

シンポジウムの当日は日曜日のため、大学周辺の食堂の多くがお休みです。昼食のご用意をお勧めします。